

ジェラート作りへの 想い・こだわり

定信さん「秩父」を発信したくて、秩父産のものを中心にそのまますの素材を使っています。着色料や香料も一切使わず、すべてお店の工房で丁寧に作っています。SUN DOLCEの原点である「ミルキークリーム」は父がやっていた頃からずっと変わらないレシピで作っているんです。原材料も高騰してきていますが、昔からの味は変えたくないですね。お客様にも「子どもの頃からの忘れられない味懐かし味」と言っていただけのはやっぱうれしいです。

SUN DOLCE
CHICHIBU

秩父で35年以上続く/
ジェラート専門店
サンドルチェ
SUN DOLCE



二代目オーナー
山上裕子さん



初代オーナー
山上定信さん

山上定信さんと
山上裕子さんに
お話ししました！



事業を始めたきっかけ

定信さん「都内に住んでいた頃に飲食店でアルバイトをしていて、喫茶店や洋菓子店などを転々としていました。私の兄がパティシエで、秩父市の影森で洋菓子店をやっていた。矢尾百貨店にも出していたんです。東京から秩父へ遊びに行くことも何度ありました。30歳の時、兄のお店を手伝うことを機に秩父へ引っ越ししました。洋菓子店は夏場はどうしても暇になるので、都内の展示会を見に行ったりしていました。そこでジェラート製造機に出会い、やってみようかなと思ったのが始まりです。

昭和の終わり頃、身内の紹介で最初は行田にジェラートのお店を出しました。それから2、3年後に兄のお店が閉店し、テナントを引き継ぐ形で1989年に秩父の矢尾百貨店でジェラート専門店を始めました。オープン当初はすごかったですね。かなり反響があつて毎日忙しかつたです。それから何十年も経って、機械の老朽化もあり矢尾百貨店からは一度撤退しているのですが、そのタイミングで娘が引き継ぐと言ってくれて、2016年1月に秩父市番場町に2号店をオープンしました。

裕子さん「父がお店をやめると言ったとき、私はやめたくなかったんです。周りの人からも無くなるのは寂しいという声がよくあつたので、やりたいというよりは、その時は私がやるしかないと思つてお店を引き継ぎました。矢尾店1号店は地元の人や昔からの根強いファンが多かったのですが、番場店2号店は秩父だけじゃなくもつという人の方が増えてもらいたいという想いで始めました。



ひろがる、ちちぶ

VOL. 3

2025年 8月発行

私が
お届けします！



地域おこし協力隊
ふるさと納税担当 那賀

秩父市ふるさと納税返礼品提供事業者さんにインタビュー《ヒト・モノ・コト便り》

店名「SUN DOLCE」の由来

裕子さん：父のニックネームが「サンちゃん」なのですが(笑)、母の提案で「サン〇〇」にしようということになり、イタリア語でデザートの意味する「ドルチェ」をつけて「サン・ドルチェ」になりました。父がやっていた頃はカタカナ表記でしたが、私はこの真ん中の「・」が何なのだろう？とずっと思っていて(笑)、ちょっと昔風なのが嫌だったんです(笑)。2号店をやるとき名前はそのまま残したいと思ったので、表記は英語で「SUN DOLCE」、SUNは太陽という意味でつけました。これは私がハワイが大好きで毎年のように行っていて、ハワイにいるかのような環境で仕事をしたいんです！お店の雰囲気もそうですし、太陽もハワイのイメージからですね。お店のロゴも真珠を太陽に見立てたデザインになっています。父のニックネームがサンちゃんじゃなかったら、こんな風に繋がらなかったと思うと面白いですね(笑)。



ミルキークリーム

SUN DOLCEの原点の味！

まずはこれを食べてほしいです！

いろんなお店のジェラートを食べるのですが、やっぱりパナコラってこのミルキークリームが一番おいしいと思いますね。それくらい自信があります！(裕子さん)



ジェラートは何十種類もあり、ミルキークリームをベースに作っています！

秩父錦 イチローズモルト
みそポテト ハワイアンピーチ
ティラミス ビターショコラ
抹茶 いちごシャーベット
バナナチョコチップ etc...

★ふるさと納税の返礼品にもなっています★



今後の展望

新商品のアイデアは常に考えていますし、いろんなところにアンテナを張っています。店舗はこれ以上拡大はせず、できる範囲で営業を続けながら多方面に広めていきたいです！

秩父はどんな街？

ゆこに行っても知り合いがいて、すぐ繋がりますね。子どもの頃は都会への憧れがあつてつまらないイメージだったのですが(笑)、大人になっていろんなところに行くようになると、秩父に帰ってくると落ち着くなあと思います。環境がすごくいいと思いますし、のんびりと過ごせるいいところですね。

なるほど！秩父弁

「せっしょうする」 意味：世話をする

「あの人はちまがだいなー」

意味：あの人はケチだねー

クレープも
人気です♡

お好きなジェラートで
シェイクもできます！

Sun Dolce

【矢尾店】
埼玉県秩父市上町
矢尾百貨店内1階
10:00～18:00(水曜定休)

【番場店】
埼玉県秩父市番場町 4・8
11:00～17:00(水・木曜定休)



公式HP
ONLINE SHOPは
こちらから！



公式
Instagram

事業を始めたきっかけ

私の父は材木屋の息子でしたが、7人兄弟の五男だったので、家業は継がず自分で独立して新井木工所を始めました。私が生まれる前の昭和43年からですが、もともと従業員は3人ぐらいいたのですが、徐々に減っていき、私が高校を卒業するときは父一人でやっていた。そのときから自然と手伝い始め、仕事を引き継ぐ形になりました。

製品への思い・こだわり

木の性質や特徴を活かして用途に合わせた木材を選び、木の温もりや味わいを出しつつ、実用性のあるものを作っています。街で売られている大手家具メーカーの家具は段ボールを圧縮したようなものに木目のシートが貼ってあり、低コストで作って軽くスタイリッシュです。それに対してうちは丸太から仕入れることで材料費は抑えられますが、重く、木材を乾かすのに4〜5年かかり、場所代もコストとしてかかります。割れたら短くなり、戻ったら裏表を削るから薄くなってしまう目減りしていきいんです。それから磨いて塗装して販売までこぎつけるので、どうしても一枚単位の値段が上がってしまうんです。でも、時間が経たなくても丈夫で長く愛用できるものを作りたいと思っています。わざわざ遠方から探して来てくれる方もいらっしゃいます。やはり実際に触ってほしいですね。木目や表情に同じものはないですからね。一生使えるものなので長い目で見れば高くはないと思いますよ。

天然木で一点物が多いので、お客様によっては「いい作品作ってますね」と言われるんですよ。ものづくりとして何もの形のないものから作り上げていくのは「作品」でいいと思うけれど、うちの場合は「いかに天然の形を残しながら、美術品ではなく実用性のあるものを作るか」という感覚なので、「商品」や「製品」と呼んでいます。

製造工程 ～新井木工所で一貫して行っている～

- ①原木の仕入れ・国産(ケヤキ)を中心に様々な材質を仕入れしている
- ②製材・用途に合わせて、板目や輪切りに製材する(角材・板材)
- ③乾燥工程・時間をかけて行うことで、高品質な木材に仕上がる
- ④加工作業・乾燥した板はひねり(反り)が出るため、裏表を削り平らにする
- ⑤塗装工程・削って磨きを出して塗装し、美しく仕上げる
- ⑥販売

GREAT!!

ウイスキーの樽材で作った
晩酌用木皿

・Nice・

イチヨウ材のまな板(大・小)

こちらの商品は
ふるさと納税の
返礼品にも
なっています

おすすめ商品

一枚板のテーブル

「傘を**か**ぶる」
意味：傘をマす

新井さんの
秩父弁講座!

「はあ、すげーいいよ」
意味：もう、じゃなくていいよ

公式
インスタグラム

新井木工所

〒369-1872
埼玉県秩父市上影森3-6
営業時間 9:00～18:00

@arai_woodwork



新井啓利さんに
あらいひろし

お話伺いました!

周囲の刺激が スキルアップに繋がった

父は時代のニーズに合わせて今売れているものを作るという考え方で、自分でオリジナルなものを作るというのには興味なかったんです。私もそれにちよつと近いですね。最初の10年ぐらいは特に何も考えずに仕事をしていた。20代後半で地元(秩父)の組立家具店に入社したのですが、そこでは木工系の二代目の人たちが集まっていた。皆頑張っていたんです。その時自分ももつと頑張らないといけないなと感じて、木のことを勉強し始めました。更に芝居まつりに出店しはじめた時も自分の知識不足を痛感したんです。木工製品を売っているのにお客様に説明ができない。これでは売れるものも売れないなと思う、それからは必死に勉強しました。

手づくり木品
秩父新井木工所



印象に残る出来事 ～今後に向けて～

「家の敷地内に立っている木を記念に残したい」「祖父が守っていた木なので残したい」という依頼があって、そういう方は製品に対する思い入れが強いと感じますし、こちらもやりがいがありますね。あとは学校の記念樹を使った製品作りも携わっています。枯れてしまったけれど、記念に残したいといった相談もあります。最近はまだ捨ててしまうのではなくSDGs的な再利用が流行っているの、そういう注文もぽつぽつありますね。一般のお客様が多いのですが、飲食店のテーブルカウンターの依頼など設計士さんから依頼をいただくこともあります。うちは機械設備や豊富な材料のストックがあるので、それが信頼度にも繋がっています。これからお客様に喜ばれるような商品が作れたらいいなと思います。

【編集後記】今回の取材では、おまけコンテンツとして秩父弁をたくさん教えていただきました。中でも特に印象的なものを紹介しています。ちなみに、カメラマンのことは秩父では「わつくさ」と呼ぶそうです! 秩父の方言って面白い(那賀)